

## 病院を受診された患者さまへ

当院では機関長の許可を得て、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (研究番号)	「沖縄の重症大動脈弁狭窄症患者の予後に関する前向き研究 Okinawa Severe Aortic Stenosis Registry」
当院の研究責任者 (所属)	琉球大学病院心臓血管低侵襲治療センター 氏名：岩淵成志
他の研究機関および 各機関の研究代表者	おもろまちメディカルセンター 玉木正人
本研究の目的	<p>心臓は血液を全身に送るポンプの働きをしていますが、内部は4つの部屋に分かれています。各部屋を逆流しないよう、部屋と部屋の間には弁と呼ばれる扉がついており、心臓には4つの弁があります。このうち、全身に血液を送るポンプの役割をしている左心室と、大動脈の間にある弁を大動脈弁と呼びます。大動脈弁狭窄症は、大動脈弁の性質が硬化し、血液の通過できる面積が狭くなる病気です。始めは症状を伴わず進行します。進行すると、狭心症のように胸が痛くなったり、失神したり、心不全になるなどの症状を呈するようになります。心不全を発症すると、つかれやすい、歩くなど軽い労作で息切れがする、横になると呼吸が苦しく、また特に朝方息苦しくなる、足がむくむ、などの症状が認められます。また、突然死の可能性があるとされています。症状を伴う場合、多くは「大動脈弁置換術」という手術が基本的な治療となります。さまざまな原因(動脈硬化・リウマチ熱・二尖弁など)により弁の性質が硬化しますが、現在もっとも多い原因は加齢による動脈硬化によるものです。通過できる面積が狭くなることで大動脈弁狭窄症となります。</p> <p>この研究は長寿県である沖縄県での大動脈弁狭窄症の実態を調査して、「沖縄県の大動脈弁狭窄症の治療の向上に役立つ。」ことを目的としています。</p>
研究実施期間	研究開始より2025年12月31日
調査データ(該当期間)	研究開始より 登録期間 2014年1月から2019年12月まで 調査データ収集期間 登録から3年間(2023年12月まで)
研究の方法 (利用する試料・情報等)	●対象となる患者さま この研究は大動脈弁狭窄症と診断された患者さんが対象となります ●利用する試料・情報

	<p>[調査の最初に調査する事項]大動脈弁狭窄症の程度を評価するための心臓超音波検査結果。症状の有無、一般採血検査結果、診察結果、心臓病以外の病気の有無、日常生活動作の程度など。</p> <p>[外来通院時に調査する項目] 調査開始後、半年ごとに3年間心臓超音波検査結果、一般採血結果、症状の有無、日常生活動作の程度、入院治療の有無など。</p>
<p>試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法</p>	<p>他の機関への試料・情報の提供はありません。</p>
<p>試料・情報の二次利用</p>	<p>特になし</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>利用する情報から氏名や住所などの患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業はありません</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話： 098-895-3331 (内線 1150) 担当者：琉球大学病院心臓血管血管低侵襲治療センター 岩淵成志</p>
<p>備考</p>	<p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、上記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし解析・発表後は研究対象から除外することはできません</p>